

平成 21 年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会
審 議 結 果

【全体】

- 各ダムとも適切に管理されているが、今後もダム周辺の自然・社会環境等の動向を把握しつつ、治水・利水効果等が効率的に発現できるよう、引き続き適切な管理を行うこと。
- 社会資本の一つであるダムの意義について、治水・利水・環境等の観点及び地球環境変化等に起因する気候変化への対応等について、分かり易い表現により一般住民に伝えていくこと。
- 流入、下流河川、ダム湖内水質の動向を引き続き把握するとともに、水質保全の観点からダム湖内沈殿物への対応について検討していくこと。
ダム湖の富栄養化現象が経年的に生起するようになることは、有機性沈殿物の積年的累積・蓄積とダム湖全体への濃度的蓄積へと影響していつていることが想定されることから、今後、出水時の流入負荷の把握と共に、ダム湖内水質の動向、さらに湖内沈殿物（堆積砂分のみならず、有機性微細粒子）の把握とその対応策の検討が求められる。
- 水質保全及び堆砂対策の観点から、ダム上流地域の土地利用動向の把握に努めるとともに、砂防、治山等の関係部局との情報共有を行っていくこと。
- 外来生物については、区分・定義を明確にするるとともに、外来生物の進入状況に注意し、良好な自然環境の保全に努めること。
- ダム湖周辺利用者の減少傾向の要因等を把握しておくことも重要であり、ダム管理者として水源地地域の活性化等の観点から水源地地域ビジョンの実現のための支援・協力を行っていくこと。
- 地域住民との協同による各種行催事等について、各ダムで取り組まれている好事例について情報共有を図るとともに、実践していくこと。
- 自然に触れる場としてのダム湖の存在は青少年の環境教育の観点からも極めて意義の大きいものがある。ことに、直接ダム湖の水に触れたり、水泳や水生生物の観察は重要と考えられる。夏休み等に、上流の清流河川での水泳や水生生物の観察が可能となるような積極的な取組みが望まれる。

【田瀬ダム】

- 水質保全施設の効果検証を継続するとともに、「アオコ」の発生抑制対策の検討を進めること。

【白川ダム】

- 「淡水赤潮」の発生については、引き続き水質等の調査を実施し、発生実態を把握し原因究明に努めること。